

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2008年12月20日

第 309 号

牛の涎(うしのよだれ)

理事長 稲松義人

クリスマスを迎える一二月は、キリスト教会の暦では一年のはじめということになっていきますが、日本人の習性でしょうか、やはりこの時期は一年の締めくくりという感じが強いです。二〇〇八年は、小羊学園にとって新たな一歩を踏み出した一年でした。昨年の秋、経済的な状況が悪化し、ぎりぎりの決断によって踏み出した児童寮・青年寮の移転改築でした。一月にはまだ影も形もなかった工事予定地でしたが、工事が始まると見る見るうちに建物はできていきました。その間も夏にはガソリン代が一時リットル一八〇円になるなど、諸物価が高騰し、施設の日常運営での不安も高まりました。また、なぜか今年の利用者の中に入院や手術の必要な事態が連続し、職員配置にも苦勞し毎日追われるように過ごしました。そんなことで移転準備も決して十分にできないうちに、建物は九月には完成し、一〇月には残工事と引越しの準備をし、一〇月三十一日に竣工式をさせていただき、一月から、新しい「三方原スクエア」での生活がはじまりました。

十分の心構えができないまま、新し

い場所に移って、職員の仕事の段取りは大きく変わりました。小さい単位で生活するようになり、職員同士が顔を合わせて情報交換する時間が減りました。職員が直接会話することは、利用者を支援するために必要な具体的な情報をやり取りするだけではなく、それによって気持ちの上で支えあっているところが大きかったのだということを感じています。それが十分にできないことで余計に不安が広がるようです。不安が広がるときに、気持ちが浮き足立ってしまうことがあるように思います。私自身も課題が山積する中で、次々と出される問題点に納得できる回答ができず、役割も十分に果たしていないことを反省する毎日です。

しかし、後ろを振り向いても問題は解決しません。「お正月気分」という言葉があります。浮ついた軽率なイメージもありますが、年があらたまったから、気持ちのリセットして明るく行くという前向きな部分も感じます。

来年は、丑年(うしどし)です。新しい年の私たちの歩みはどうなっていくのでしょうか。「牛歩」とは、歩みが遅くなかなか前進しないことだそうです。来年の歩みが、なかなか前進しないということにならないように努力したいと思います。飛躍できるような見通しはなかなか見つかりません。財政の苦しい行政から、補助金をカットするなどの方針が聞こえてきます。

社会福祉を取り巻く環境に限らず、社会全体を見ても本当に明るい話題が少なく、将来に向けて閉塞感のある今日この頃のような気がします。格差社会からくる貧困、病苦、犯罪、暴力、差別……。考えてみると、社会福祉の働きが向き合ってきた世界は、昔から明るい状況で生活している人たちではありませんでした。病気の人も、介護が必要な人も、仕事のない人も、家庭のない人も、社会から排斥された人たちも、みんな実態の差はあるにしても、それぞれ限界を超えたところで途方にくれて生きている人たちでした。そこに向き合ってきた私たちの先輩は、実際の介助の手や生活の糧とともに「生きる希望」を届けてきたのだと聞かされます。だとすると、そこに立ち向かう私たちも、困難にくじけないための「確かな希望」がもてるようにならないければならないと感じます。

牛にちなんだ慣用句で「牛の涎(うしのよだれ)」というのがあります。「商売は牛の涎」とか言われることがあるようです。これは、細く長く切れそうでも切れず粘り強く続けていくことが大切なのだという意味だとすると、それは商売に限ったことではないのでしょうか。あまり、きれいなたとえではないような気もしますが、新しい年は、ぜひ「牛の涎」でいきたいものだと思っています。ゆっくりでも希望をもって前進していきたいと思えます。

三方原スクエアに 引っ越して一ヶ月

A&Eの五つの居住棟には、それぞれ愛称をつけました。それぞれの個性があつてよいと思っています。小さい単位での生活で、利用者一人ひとりが落ち着いて暮らせる場所にしたいと願っています。

のぞみの家

河合 桂子

三方原スクエアを訪れて、最初に目に入る二階建てのお家が「のぞみの家」です。男性七名、女性三名が元気に生活を始めました。小羊学園の中では、比較的介助度が低く、動きの多い方たちが集まった「のぞみの家」。「自分でできることは自分でやりましょう」「難しいことは職員と一緒にやってみましょう」と、いろいろなこと挑戦していけたら…と思ひ、生活をしています。

引っ越してきて一か月。それぞれに自分の居心地の良い場所を見つけたようです。自分のお部屋で新聞や写真を見て過ごす方、リビングでソファに座りテレビを観て過ごす方、一人おしゃべりして大笑いする方、まだまだ「ここはどこ？」と探検する方…と様々で

すが、みなさんに協力していただき、安心して生活できるお家を目指して行こうと思います。

ぜひ、のぞみの家に遊びに来てください。元気いっぱいみなさんとお待ちしています。

むつみの家

中西 洋子

むつみの家が他の家と違うところ：それは、メンバー全員男性ということろです。ちょこちょこいろいろな職員が遊びに来ては、見渡す限りの男・男・男に「男祭りだあ!!」と叫んでいます。そんな男祭りといわれるむつみは名の通り、仲睦まじく!?!?!夕方になると水戸黄門派とトムとジェリー派に分かれてTVのチャンネル争いが始まります。また朝は、新聞を取っている方たちがポストまで新聞を取りに行き、リビングで優雅に愛読。♪お互いの(静岡新聞とスポーツ新聞)新聞も読みたくて、「見せてくれ〜!」と二人追い駆け合って遊んでいます。お手伝いもさすが男性!力持ち!掃除になると何も言わなくても椅子を上げてくれる優しい皆さん。そんな微笑ましい姿が男だらけの家にもあるんですよ。♪良かったら皆さんもぜひ男祭りの家・むつみへ遊びに来て下さい!お待ちしております。



共同募金により、リビングにソファーとテレビが入りました。

なごみの家

石川 綾子

「なごみの家」は車椅子対応の棟で、他の棟より少し広めのお家です。ゆったりペースのほんわかした利用者たちなので、いつも職員をなごませてくれます。

介助度の高い利用者が多い棟ですが、それぞれに自分でできる部分があります。しっかりと顔を見て声をかけながら、個々のできる力を大切にして、丁寧な介助を心がけています。また、他の棟に比べて動きが少なく、動きの小さい利用者達ですが、「職員に自分を見てもらいたい」「好きな物が欲しい」などの要求をしっかりと表してくれて

みのりの家

森 映子

います。頑固者さんもいます。視線の向きであったり、手の動きであったりと、意思表示のサインは小さい利用者もいますが、そのサインにもしっかりと目を向けていきたいと思っています。まだまだ、本人が自分でできるまで待つことが難しかったり、小さいサインを見逃してしまったりということもあると思います。利用者の持つ力や意志を大切にしながら、利用者自身もなごむことができるお家を目指していきたいです。

こんにちは。みのりの家です。私達みのりの家は、会話を楽しめる方もいらっしゃいますが、発作・嚙下・行動面で配慮が必要な方が多く、皆さんが生活環境の変化、生活リズムの変化により、精神面・体力面にどのような変化が見られるのかがとても不安な一か月でした。初めは、どこかへ二泊三日の旅行にでも来て、長年住み慣れた旧舎へ帰りたくなるのではないかと思う





事もありましたが、意外や意外…、皆さん自分の居心地の良い場所を見付けて過ごしている様子が伺えています。トイレの場所・自分の居室をしっかりと認識でき、声掛けで移動できる方も増えています。支援者からは障がいの重さを考えると、一名の支援者配置では死角もあり、不安に感じる事も多いユニットです。しかし、入浴や居室で穏やかに過ごされている様子を見ると、少人数も悪くないな…と感じてきます。まだまだこれから利用者も職員も環境に慣れ、生活のリズムを整えていき、もっともっと楽しめる生活にしていきたいと思えます。

そだちの家

坪井 智代

小羊学園児童寮から、三方原スクエアに引っ越しをして「そだちの家」での生活がはじまりました。一〇月中頃から子どもたちの不安解消の意味も含めて、引越しの準備を職員と一緒にお手伝いしてもらいながら、三方原スクエアへ行き来する時間を作ったこと、私たちの予測以上に、子どもたちが新しい生活を楽しみにしてくれていたことが手伝って、これまでと同じような流れで生活をスタートさせることができました。

「そだちの家」の唯一の女子高校生が、大好きな学校の先生に「びんぼーんって鳴るの。(玄関のチャイム)」
「新しいお家、見に来てね。」とお話していたことを聞いて、驚いたのと同時に、観察力が立派なことと彼女が新しい生活に楽しみまで見出してきていることがとてもうれしく感じられました。

新しい環境で、子どもたちの表情が見えやすくなったことや、生活の音を感じやすくなったことに感謝し、子どもたちと生活を楽しみながらも、ご家庭で生活されているお母さんの大変さを、少しでも実感できるように生活を送ることができると良いなと思っています。子ども達は「いらっしやい。」と言ってお客様をお迎えすることがう

れいようです。お時間がありましたら、ぜひ、ピンポンとチャイムを鳴らして「そだちの家」へお立ち寄り下さい。

スクエアの日中活動

紅谷 純

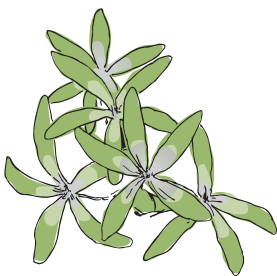
一月より、生活部分と日中活動部分と大きく支援体制が分かれ、まだまだ慣れない中で日中活動が始まっています。新しい環境や体制に困惑しながらも、一ヶ月が過ぎました。始まってすぐは、利用者もまるで「どこか知らない所へお出かけに来ている」様な気分でした。次第に自分の居場所を探す利用者もいますが、不安な様子を見せる利用者もまだいます。ゆっくり環境に慣れることから活動を始めようと考えています。

今までも、利用者と丸一日の生活を共にする中で、生活と活動を同じように重視して支援してきましたが、現在では生活と活動がはっきりと区別されることで、利用者の気持ちの切り替えがスムーズになってきたと感じ、職員も同じように切り替えがしやすくなったと感じています。活動担当職員がそれぞれの家(ユニット)へ迎えに行くことで、利用者も職員も気持ち良く活動へ参加することができていると感じます。

日中活動は、大きく分けて二つのグ

ループに分かれています。地域交流棟へ通うグループと自閉的傾向の見られる利用者はワークショップ「みらい」へ通うグループと分かれ、通った先でそれぞれの少人数のグループで、散歩や活動に励み、生活のリズムを整えています。活動や生活の充実が利用者へ安定(安心)させると考え、活動内容、余暇の充実など今後も検討していかなければならぬと強く感じています。その中でも、課題は多く残されていますが、利用者の安全と健康を第一に考え、充実したプログラムの提供を日々検討していきたいと考えています。

また、職員間の連携も今まで以上に強くしていかねければ、理想とする生活や活動に近づかないので、連携を深め利用者にとって良い支援が何なのか日々考えていきたいと感じます。まだ、新体制になって始まったばかりですが、外部から見えて見苦しい点もあるかと思いますが、長い目で見守っていただけると職員の励みにもなるかと思えます。どうぞ暖かい眼差しでご指導していただけたら幸いです。



平成二〇年度 共同募金受配事業報告

小羊学園青年寮（三方原スクエア成人部）では、この度の移転新築に合わせ、平成二〇年度の共同募金の受配を受け、居住棟のリビングとキッチンに三人掛けソファと液晶テレビ、冷蔵庫と食器棚をそれぞれユニットに一台ずつ、合計六台ずつ整備させていただきました。家庭的な雰囲気の中で、利用者の皆さんが落ち着いた楽しい生活を送ることができています。本当にありがとうございました。

- 総事業費 一、四七二、四〇〇円
- 共同募金 一、〇三六、〇〇〇円
- 自己資金 四三六、四〇〇円

居住棟の各ユニットの台所に、冷蔵庫と食器棚が入りました。



小羊学園を支える会

ご寄付へのお礼状が遅れて 申し訳ありません。

10月後半から11月に掛けて、三方原スクエアの移転等に関わる優先的な事務処理に追われ、寄付金のお礼状（領収書の送付）が遅れております。誠に申し訳ありません。心よりお詫び申し上げます。

小羊学園を支える会の具体的な支援として、寄付金の受付とともに、ボランティアとしての協力があります。直接、各施設へ申し出ただき、施設ごとに調整していますので、それぞれの施設にご連絡いただくこととなりますが、三方原スクエアでは、施設の移転に伴い、特にお手伝いくださる方を求めていますので、ご奉仕いただける方であればぜひご連絡ください。

三方原スクエア 電話053-414-1833
今年度いっぱい、三方原スクエア建設のための寄付金について帯グラフでの報告を続けます。



小羊学園への寄付金の振込先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
 郵便振替口座 00890-4-45415
 リソナ銀行浜松支店 (普通) 040005
 静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

問い合わせ先：小羊学園事務センター
 〒431-1304 浜松市北区細江町中川 7440-1
 電話 053-420-0830

小羊学園の

クリスマス



教会でキャンドルサービス

今年も小羊学園の近くにある遠州栄光教会三方原礼拝堂をお借りして、小羊学園のクリスマスキャンドルサービスをしました。聖歌隊のボランティアとして浜松市内の教会などから約二〇名の皆さんがお手伝いくださり、利用者職員等も合わせて約一五〇名でクリスマスのお祝いをしました。

三方原スクエア

一般見学会に約三〇〇名が来園

一月二二日、二三日に開催した三方原スクエアのオープンハウスには、両日で約三〇〇名の方が来園され、新しい施設内を見てくださいました。これまで短期入所等で利用されていた方、通所施設を利用されている方がご家族で見学に来られ、一般の家庭と同じような居住棟の設計を見て、今までの入所施設のもつイメージと違ったものを感じてくださったようでした。多くの皆様のご支援を受けて竣工することができた施設です。ぜひ多くの皆様にご覧いただけると嬉しく思います。

編集後記

移転に伴う事務的な手続きが思っていたよりも大変で、すっかり手間取ってしまいました。まだ何か抜けているところがありそうです。新しい建物での生活に気持ちに向く一方で、四〇年使ってきた旧小羊学園児童寮の解体作業が進んでいます。これまで多くの先輩たちがそこで日々の活動を積み上げてこられた感慨深い場所です。私が三〇年前にそこで働いた頃は二寮といい、訪問教育が始まった頃の学齢児さんたちと一緒に過ごした思い出がたくさんあった建物です。歴史はこうして時を重ねていくのだと思いを巡らしています。良いお歳をお迎え下さい。